

〔美術〕

(1) 改訂の基本的な考え方

美術を専門に学習する生徒に対し、中学校美術科の発展として美術に関する専門的な内容を指導する教科であることから、「美術に関する専門的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、美術や美術文化と創造的に関わる資質・能力を次の通り目指す」と示し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理され、実現できるように示された。また、各科目の目標についても、この三つの柱で整理され、これらを相互に関連させながら育成できるように整理された。

以下の点が今回の改訂の主な内容である。

ア 科目の改善

イ 指導計画の作成と内容の取り扱いの改善

(2) 美術科の目標

美術に関する専門的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、美術や美術文化と創造的に関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようにする。
- (2) 美術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 主体的に美術に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。

※「造形的な見方・考え方」を働かせるとは

「造形的な見方・考え方」を働かせるとは、美術に関する専門的な学習を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことである。

(3) 科目の構成

(★印は、原則履修科目を表す。)

現 行	改 訂	備 考
美術概論 (2～4)	左に同じ (★)	
美術史 (★) (2～6)	左に同じ (1～6)	
素描 (★) (6～12)	左に同じ	
構成 (★) (2～4)	左に同じ (2～6)	
絵画 (8～24)	左に同じ (4～24)	
版画 (4～12)	左に同じ	
彫刻 (4～12)	左に同じ (2～12)	
ビジュアルデザイン (4～12)	左に同じ	
クラフトデザイン (4～12)	左に同じ	
情報メディアデザイン (4～12)	左に同じ	
映像表現 (4～12)	左に同じ	
環境造形 (4～12)	左に同じ	
鑑賞研究 (4～12)	左に同じ (★) (1～12)	

(4) 主な科目のねらい・内容等

科 目	ねらい・内容等
美術概論 (原則履修科目)	・美術における基礎となる事項や造形的な理論を中心とした学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、芸術としての美術の意義を捉え、専門教科美術を学ぶ基盤となる資質・能力と美術を専門的に学ぶ科目
美術史 (原則履修科目)	・美術の変遷に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、時代、民族、風土などの相違点や共通点による表現や文化の特色等などから、新たな美術文化を創造するための基礎となる資質・能力を身に付け、受け継がれてきた伝統やそれらを背景として育まれた文化とその価値を尊重する態度を養う科目
鑑賞研究 (原則履修科目)	・日本及び諸外国の美術作品などについて幅広く研究する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、作品の特質や背景などについての理解を深め、鑑賞の視点を深化させる創造的な思考力や判断力等を身に付け、根拠をもって論考し、討論や評論などができる鑑賞に関する資質・能力を高めるとともに、保存・修復及び展示の意義を理解し、美術や美術文化を尊重する態度を養う科目
素描 (原則履修科目)	・デッサンやスケッチなどに関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、対象のイメージや空間、形体などを把握し、表現材料の特性を理解し、表現を工夫しながら的確に観察する力と描写する力を高め、造形表現を追求する態度を養う科目
構成 (原則履修科目)	・平面や立体の構成の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術の多様な創造活動に豊かに関わることができるよう、形体、色彩、材料、美的秩序等、造形的な創造活動に関わる諸要素について理解を深めるとともに、基礎となる技能や、造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力、判断力、表現力等を身に付けるようにし、造形感覚を高めようとする態度を養う科目

(5) 教育課程編成上の留意点及び指導計画作成上の配慮事項等について

<p>Q 美術に関する学科において、「美術概論」、「美術史」、「鑑賞研究」、「素描」及び「構成」を、原則として全ての生徒に履修させることとした理由は何か。</p> <p>A 「美術概論」、「美術史」、「鑑賞研究」、「素描」及び「構成」は、美術に関する学科において、美術を専門的に学んでいく上で基底となる内容であるためである。</p>
<p>Q 特定の科目を専門的に履修させることや同一の科目を2以上の年次にわたって履修させることや、複数の科目を関連付けて取り扱うことなどをしてよいか。</p> <p>A 指導の効果を高めるために、特定の科目を重点的に履修させたり、同一の科目を2以上の年次にわたって履修させたり、他の科目との関連を考慮して取り扱ったりするなど、指導の工夫が求められる。また、科目の学習内容の重点の置き方、学習の順序等についても、学校の実態、生徒の経験や資質・能力、興味・関心などに応じて効果的な指導ができるよう工夫する必要がある。</p>